

# 企業ニュース 島津製作所

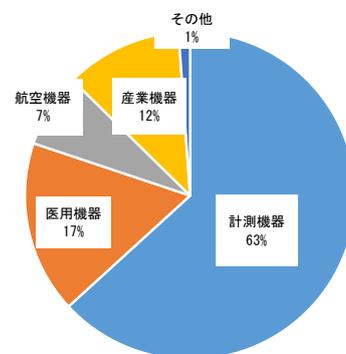
(東証1部：7701) <https://www.shimadzu.co.jp>

作成者：兵藤三郎

## 医用、産業、航空機器にも事業展開する計測機器メーカー

1875年に教育用理化学器械メーカーとして創業し、1917年に設立された計測機器メーカー。計測機器を主力に、医用、航空、産業機器などの領域に事業展開している。計測機器は、ガスクロマトグラフ（GC）、質量分析計（MS）、液体クロマトグラフ（LC）を重点機種とし、新型コロナ関連製品として検査試薬キットや全自動PCR検査装置なども販売している。医用機器では、X線撮影装置などを病院、クリニック向けに展開。産業機器は、ターボ分子ポンプ（TMP）を中心に、油圧機器、ガラスワインダーなどを展開している。TMPは半導体のエッチング装置などに取り付けられるが、足元では真空での露光を必要とするEUV露光装置向けの需要も拡大している。航空機器はフライトコントロールシステムなどを自衛隊向けや米国大手民間航空会社に納入している。

◇21.3期売上高構成比



(出所)島津製作所資料よりCAM作成

## 計測、医用、産業の伸長が業績をけん引

21.3期・第1四半期（4-6月）の連結業績は、売上高が943億円、前年同期比18%増、営業利益が124億円、同104%増。昨年の防衛省向けの大口案件の反動減に加え、民間航空機向けの需要減少が続き大幅減収、営業赤字に転落した航空の苦戦を、計測、医用、産業機器の好調で補った。計測機器は、重点機器の成長に加え、PCR関連事業の需要継続も寄与した。医用機器は、回診用X線撮影装置は減収となったが、国内医療機関の設備導入の回復で伸長した。産業機器は、TMPが好調に推移、油圧やガラスワインダーなども市況回復で増加した。営業利益は増収効果46億円に加え製品及びセグメントミックスの良化に伴う採算性向上34億円が寄与した。

22.3期連結業績の会社計画は、売上高が4,100億円、前期比4%増、営業利益が530億円、同7%増。第1四半期の進捗状況を勘案し期初計画から売上高で100億円、営業利益で30億円上方修正した。決算説明時、会社計画に対する第1四半期実績は為替影響を除き、売上高で100億円弱、営業利益で約50億円の上振れと説明しており、修正計画は保守的な印象が持てよう。

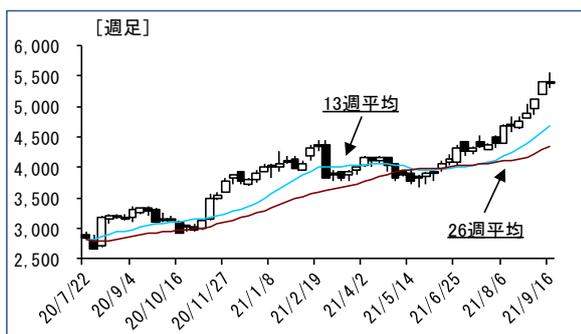
## [株価動向・投資判断]

経済活動再開に伴う需要回復に加え、新型コロナによる新たな需要を獲得し大幅に業績を伸長させた。株価は高値圏だが、さらなる業績上振れも期待でき、上値余地があろう。

<7701 島津 業績：日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20.3	385,443 (▲1)	41,845 (▲6)	42,669 (▲6)	31,766 (▲2)	107.8	30.00
21.3	393,499 (2)	49,742 (19)	48,378 (13)	36,097 (14)	122.5	34.00
22.3 予	410,000 (4)	53,000 (7)	52,000 (7)	39,000 (8)	132.4	35.00



[主要株価指標]	(売買単位：100株)
株価 (2021/9/16)	5,400 円
年初来高値 (高値日)	5,550 円 (21/9/14)
同 安値 (安値日)	3,675 円 (21/5/19)
予想 P E R (22.3 予)	40.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,154.5 円
P B R	4.68 倍
予想配当利回り	0.65 %
(1株当たり配当金年35.00円)	
R O E (21.3)	11.3 %
発行済み株式数	29,607 万株